

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
486	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Alcohol consumption and risk of renal cell cancer: the NIH-AARP diet and health study. アルコール消費と腎細胞癌の危険性 : NIH-AARP Diet and Health 研究	
<b>執筆者</b>	
Lew JQ, Chow WH, Hollenbeck AR, Schatzkin A, Park Y.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Br J Cancer. 2011 Feb 1;104(3):537-41.	
<b>キーワード</b>	
アルコール、腎細胞癌、コホート	
<b>要旨</b>	
<b>背景:</b> 中等量から多量の飲酒(15g/日より多い)の腎細胞癌に対する影響(リスク減少の効果)については、はっきりとは分かっていない。	
<b>方法:</b> 大規模前向きコホート研究である NIH-AARP Diet and Health 研究にて、アルコール消費と腎細胞癌との関係を調査した (n=402,187、うち腎細胞がん症例は 1,814 例)。アルコール消費は、調査票にてアルコール飲料の種類—ビール、ワイン、ウイスキー—と、摂取の量 (3 段階) と頻度 (10 段階) を尋ねた。腎細胞癌の発症は、州独自の登録制度等から特定した。	
<b>結果:</b> アルコールを 0~5g/日消費している者と比べて、15~30g/日及び 30g/日以上アルコール消費の多変量相対リスク (95% 信頼区間) は男性でそれぞれ 0.75(0.63-0.90) 及び 0.71(0.59-0.85)、女性でそれぞれ 0.67(0.42-1.07) 及び 0.43(0.22-0.84) であった。	
<b>結論:</b> アルコール消費は量—反応においては腎細胞癌とは反比例の関係であった。反比例関係は 30g/日以上アルコール摂取する群でより大きくなると思われる。	